

Rotary



The Hitoyoshi Rotary

人吉ロータリークラブ

通算 3 2 3 8
2025年4月11日
第32回例会

The Magic of Rotary

ロータリーのマジック

2024~2025年度 R I 会長
ステファニー A アーチック

人吉市九日町30・清流山水花 あゆの里 ☎ 2171 例会場 事務局 清流山水花 あゆの里内 ☎ 6665 ☎ 6505



人吉ロータリークラブ
ホームページ



フェイスブックページ

[E-mail]

hitoyoshi-rc@mocha.ocn.ne.jp

2024~2025年度 人吉ロータリークラブテーマ
もっと、ロータリーを楽しもう

本日の例会

国歌斉唱・Rソング斉唱

来訪者紹介、会長の時間

幹事報告

出席率報告、会務報告、誕生・結婚祝い

環境保全月間外部卓話 コムラ苗樹株 小村哲典様

Rの友紹介

寄付カード

温暖化が進むことで世界中で異常気象が起こり、人命や財産が失われることが無いように、私たちロータリアン一人ひとりが出来ることから少しずつ取り組み、未来の子どもたちに美しい地球を手渡せるようやっていきましょう。

本日は、コムラ苗樹株式会社の小村哲典様より「環境保全」についての卓話ををお願いしております。後ほど、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、ロータリー・ポリオプラス担当部よりメールが届いていましたのでご報告いたします。世界予防接種週間（4月24日～30日）は、予防接種の重要性やワクチンの安全性・有効性についての理解を深める機会です。ロータリーは予防接種の大切さを強く信じ、1985年にポリオプログラムを開始しました。ポリオは99.9%まで減少しましたが、根絶にはまだ至っていません。

ワクチンで防げる病気で苦しむ子どもがいてはなりません。この思いから、ポリオ根絶活動は、ロータリーが最優先で取り組む人道的プログラムであり、この機会にワクチンの大切さについて地域社会で啓発活動を行い、ロータリーの取り組みについて伝えましょう、と言われています。

また、国際ロータリーからは、クラブの活動等をソーシャルメディアを効果的に使って積極的に発信し、参加者の基盤を広げましょう。という呼びかけも来ています。SNS等をされている方は、ぜひロータリークラブの取り組みを投稿していただければ幸いです。ソーシャルメディア活用のヒントについては、ブランド・リソース・センターでご覧になれますので、興味のある方はぜひご覧いただければと思います。

最後になりますが、先週の夜の花見例会には多くの会員の皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。準備等にご苦労いただいた親睦委員会・SAA委員会の皆様、そして急きょ桜のライトアップをしてくださった田口会員にも感謝申し上げます。

本日は、野球やゴルフが始まり沢山ネタを考えていたのですが、プログラム委員長から「長くならないように」と強く言われておりますので、会長の時間を終わります。

点鐘 岩井和彦 会長

歌 唱 ソングリーダー 小川孝博 委員

国歌 「君が代」
R S 「奉仕の理想」

司会・進行 プログラム 春木 頤 委員長

来訪者紹介

コムラ苗樹株式会社 小村 哲典 様

会長の時間

会長 岩井和彦

今月のロータリークラブは「環境月間」です。地球に人類が誕生して以来、生活の便利さを求めるあまり、多くの環境を破壊してきました。私の職業も、住宅を建てるために重機で山を切り開き、木々を伐採し、結果として多くの二酸化炭素を排出してきました。また、皆さんも便利さを求めて電気やガソリンなどの燃料を使用し、二酸化炭素を排出しているのではないかでしょうか。いろいろな説がありますが、二酸化炭素の増加が地球温暖化の原因とされており、ようやく近年になってSDGsなどを通じた温暖化を止めようという取り組みが始まりました。しかし一方で、いまだに燃料を掘りまくれと言う国家元首もいます。

幹事報告

幹事 伊久美早利

○2025-2026年度地区研修・協議会 報告

・日時：4月6日10:30～16:00

場所：大分市ホルトホール

・人吉RCからは本田ガバナー補佐エレクト、塚本会長エレクトをはじめ総勢13名が参加。藤田ガバナーエレクトから次年度の地区方針の説明の後、午後は各部会に分かれての協議会。各部会の協議会報告は次週と5月9日の例会で実施予定。

・閉会前の質疑応答で水野会員が次年度ラーニング委員として進行役を務めたが、これは延岡ガバナー年度における地区幹事に任命される予定であることから。来年には当クラブがホストクラブとして地区研修・協議会を仕切ることになるため、今から準備する必要があると改めて認識した次第。

○2720地区 新クラブ誕生のお知らせ

クラブ名：大分01i01iロータリークラブ

(旧 大分キャピタル01i01iロータリー衛星クラブ)

加盟承認日：2025年3月25日 会員数：24名

認証状伝達式：2025年9月20日（土）

○今後の例会について

・4/18 通常例会 優良職員表彰

・4/25 例会取りやめ（地区大会）

・5/2 休会

出席率報告

委員長 吉野孝司

現会員数	52名	出席免除会員数	0名
出席義務会員数	52名		
欠席者数	19名		
出席者数	33名		
免除会員出席数	0名		

**本日の出席率
63.46%**

【親睦委員会】

4月結婚祝い

堤 正博会員 3日	増田隆二会員 12日
水野虎彦会員 15日	戸高克彦会員 21日

4月誕生日祝い

渡辺洋文会員 2日	大山善生会員 12日
堤 正博会員 15日	



【環境保全委員会】

環境月間 外部卓話

講師紹介

井手富浩委員長

皆様こんにちは、環境保全委員会委員長の井手です。本日は、RI 4月の「環境月間」にちなみます、環境保全卓話を、コムラ苗樹株式会社代表取締役社長 小村哲典様より、「いい森をつくりましょう」との演題でお話して頂きます。

社業を通しての地域貢献は元より、中小企業の経営者としての観点からも貴重なお話がお聞かせ頂けるものと楽しみしております。

それでは、小村様のプロフィールを御紹介させて頂きます。

コムラ苗樹株式会社 代表取締役社長 小村哲典様は、昭和57年相良村にお生まれになり、現在42歳です。人吉高校を卒業後、早稲田大学社会科学部に進学され、卒業後2つの会社での就業を経て、2013年(平成25年) 家業である小村緑化園入社。

2015年(平成27年) 事業継承しコムラ苗樹株式会社に改組、代表取締役就任。

同年、山林の植林、育林を担う森林整備部門を創業。(苗木生産者として全国初)

2017年(平成29年) 熊本県中小企業家同友会人吉支部 支部長に就任。

2019年(平成31年・令和元年) 中小企業家同友会青年部全国大会にて講演。

2020年(令和2年) 國土緑化推進機構より人吉水害時のボランティア活動、苗木生産、森林整備活動を評価され農林水産大臣賞受賞。

2023年(令和5年) 熊本県商工会青年部連合会「若い経営者の主張発表」大会にて最優秀賞受賞(球磨地区から20年ぶり)されました。

それでは、小村様、御講話宜しく御願い致します。

皆様方、御傾聴くださいませ。



いい森をつくりましょう
～しなやかに、たくましく～

コムラ苗樹株式会社

1. 会社概要

創業：大正7年(1918年)5月 2代目小村正敏が戦後増産 現在4代目

住所：熊本県球磨郡相良村柳瀬96番地2

業務内容：苗木生産 森林整備 (2015年より開始)

社員数：苗木部門23名 (社員8名 パート社員5名 A型支援事業所10名)
山林部門10名 (社員9名 期間雇用1名)

R7.3.31現在

生産品目：露地苗 (スギ、ヒノキ、広葉樹)
マルチキャビティコンテナ苗

生産本数：100万本/年

2. 熊本県下の林業現況と環境について

林業って・・・大きい！！



循環型林業のイメージ（出典：林野庁「令和3年度森林・林業白書」）

■熊本県下 林業の状況

皆伐面積…1400ha

植林面積…700ha

伐採に対し植林が追い付いていない現状…

- ・戦後拡大造林期に植林した森が伐期を迎える
- ・伐って植えて育てて50年。森が川をつくり、豊かな海へつながっていく
- ・伐採面積に対して、植林が追い付いていない
⇒獣害、荒れた山、水害の危険性
- ⇒高齢化、人手不足、パイを大きくしていくこと
- ・生業、木材産業としての林業の側面と里山に代表される環境保全の側面と両方ある
- ⇒どちらも大切（どちらがというわけではない）

3. 苗木づくり、森づくりの現場から

■いい苗づくり～露地苗



■マルチキャビティコンテナ苗



- ・森には必ず人の手が入る
- ・省花粉スギの普及（5年後に50%、10年後にはほぼ省花粉種に苗の切り替え）
- ・山に植林した苗木が森となって50年、水と緑と空

3. 気をつくる

- ・豊かな森づくりは豊かな水づくり、豊かな海づくりへつながっていく

4. 100年先の地域づくりと未来へ

■いい森づくり～枝打ち・除伐



■いい森づくり～植付・防護柵設置



- ・1年間畑で苗を育て、山へ嫁に出し、森として50年地域を見守る 伐採し家となり50年、家族と共ににある。100年先の地域の未来をつくる仕事
- ・育てた苗木を山へ嫁に出す
- ・いい人材の宝の山をつくる、ひとと共に、地域とともに。



いい森をつくりましょう
100年先の未来へ…

ご清聴ありがとうございました。

【雑誌委員会】

ロータリーの友 4月号紹介

本田 節会員

今月のロータリーの友の紹介を本田がさせていただきます。4月は、環境月間ということで特集が組まれております。

まず横組み7ページ、大きな見出しが“目指せ！防災のTKB48”の取り組みです。TKB48とは、災害が発生したらトイレ・キッチン・ベッド（TKB）を避難場所に48時間以内に設備することを目指した取り組みです。8ページ、9ページには“防災に関する日本と防災先進国のイタリアとの違い”を分かりやすく、避難所・避難生活学会常任理事の水谷嘉浩様が解説していらっしゃいます。

<T> トイレ・シャワー（衛生）

日本：簡易トイレが主流で（和式）、電灯がなく夜間使用が困難。

イタリア：2日（48時間）以内に仮設トイレが到着し、災害トイレはコンテナ型でシャワーと洗濯機、乾燥機、エアコン、電灯付き、が完備されております。

<K> キッチン、食事（栄養）

日本：配給された食事を自分のペースで食べる。食堂はないため非衛生的で食寝分離ができていない。食事はカップラーメンや菓子パン、冷たいおにぎりなど。

イタリア：キッチンカーが来て普段と同じ食事が給仕される。ワインや生野菜も提供され、ボランティア登録をしたプロのシェフが駆け付け温かくおいしい食事が振る舞われるとか。

 ベッド、生活空間（睡眠）

日本：床に直接雑魚寝をするスタイル。避難所の運営は自治体ごとに異なり、標準化されていない。

イタリア：生活空間（睡眠）に関しては、規格化されている家族単位で入れる丈夫なテントが提供され、プライバシーが確保されている。

その他「備蓄」「子ども・心理的ケア」「行政の役割」「災害対応のスピード」「避難所運営」「ボランティア」「防災意識」等の分かりやすい違いが書かれておりました。日本では、発災後の避難所生活などが原因で亡くなる、いわゆる災害関連死が多く、イタリアでは充実した災害対策のためゼロされております。

今回は、12ページに人吉ロータリークラブの“命のキッチンカー、被災地へGO！”という記事が掲載されました。令和6年1月1日（元旦）の能登半島地震での被災地炊き出しを行った時のことが記載されておりますが、当会員の人吉新聞社の石倉会員の方で投稿していただきましたので、このページだけは会員全員読んではほしいと思っております。

最後のまとめに、このような活動が出来たのは、ロータリーの仲間の物・心両面の支えがあったからこそ。心より感謝します、としめくくっております。

熊本地震を機に、第2720地区の支援プロジェクトの一環として誕生したキッチンカーは、社会奉仕、公共イメージ向上など多面的に活動させていただいております。

横書きの24ページ“持続可能な「水と衛生」環境の改善”という見出しで、第2830地区（青森県）と第3330地区（タイ）のグローバル補助金事業として3つの学校に浄水器やトイレ、手洗い場の修理、浄水処理、タンクの設置、さらに、衛生教育や環境学習プログラムの導入、長期的な衛生意識の向上、などの取り組みが紹介されております。今後もグローバル補助金事業を展開することで、子どもたちや先生、地域住民が安全な水と衛生的な環境を享受し、地域全体の健康と生活水準を向上できるよう尽力していきます、と書かれています。グローバル補助金は、持続可能な成果をもたらす規模の大きい長期の国際的プロジェクトとして支援されており「環境分野」についても重点が置かれています。

縦書きの4ページから8ページに紹介されているのが、総合地球環境学研究所の副所長、谷口真人様のIMにおける講演であります。タイトルは“身近な自ら未来の地球を考える”一科学的な知見で未来を可視化してみよう—です。谷口氏が専門としている水の研究、

それも身近な水から未来の地球を考え、近年自然災害が頻発する日本でこれからどう生きていくべきか、課題と具体的なご提案をされており、水を中心に、「地震と水」「地球温暖化と水」最後に「未来の社会」をどう考えるか、という内容になっております。時間の都合で詳しく説明できませんがとても興味深い講演内容でございますので、是非じっくりお読みいただければと思っております。

最後に、縦書きの9ページから12ページまで「この人訪ねて」というコーナーで、水戸好文ロータリークラブの川上美智子様が紹介されております。川上様は今年79歳、「香りの博士」として地域貢献と絶妙なライフワークバランスで幼児教育と男女共同参画と種々の公務をこなすキャリアウーマンであります。地区で唯一の、女性だけのロータリークラブとして2009年に創立された創立会員であります。「例会は、仕事が終わってから来られるように夜7時から、週1回だったのを月2回、連絡はSNSで効率よく、例会には子連れ参加もOK。お孫さんを連れてこられる方も」というクラブだそうです。

久しぶりロータリーの友を熟読しながら、創刊より72年を迎えるロータリーの友はRIが指定した公式地域雑誌を購読することで会員としての義務の1つとしてなっております。2014年1月号から電子版での発行もあり、私自身改めてロータリーの友の素晴らしさを実感いたしました。

【寄付カード】

〈ニコニコ箱〉

- ・**岩井会長** 小村様、卓話ありがとうございました。私は毎週“所さんの目が点”という番組をみて、里山の大切さを痛感しています。100年後の山を未来の子供たちへ渡すため頑張って下さい。
- ・**井手会員** 小村様「いい森をつくりましょう」とのすばらしい環境保全卓話ありがとうございました。

- ・**堤会員** 結婚、誕生日をいただきました。

〈R財団〉

- ・**葉山会員** 人吉球磨の全盛期は、山、木材の景気が良い時だったと聞いております。是非、いい森をつくり、人吉球磨の経済の復活をお願いします。期待しております。ロータリーへの入会をお待ちしております。お母さんに話しておきます。

- ・**本田会員** 本日は小村様、すばらしい卓話ありがとうございました。とても頼もしく感じました。また、ロータリーの友紹介もさせていただき感謝です。

- ・**北会員** 入会26年目を記念して 4月7日入会

- ・**新堀会員** 地区研修・協議会では、なかなかお越しいただけない膳所パストガバナーをお待ちする間葉山さんには急な指名にもかかわらず発表していただきました。

〈米山記念奨学〉

- ・**有馬会員** 小村哲典社長、本日はご多用の中、貴重なお話をありがとうございました。素敵なお話に感動しました。益々のご活躍をご祈念申し上げます。

点鐘 岩井和彦 会長